一身田の新聞

発行
一身田地区
社会福祉協議会

編集長
岡本博和

地元の氏神さんにお参りしよう
寺内町の館　もっと活用しようや
みんなの広場　高田本山をもっと知ろう！

明けましておめでとうございます

お正月は地元の氏神さんへ詣でよう!

2023年が動き出した。今年の干支は「癸卯」である。寒気が緩み、萌芽を促す年で、昨年までの様々なことの区切りがつき、明るい世界が広がっていく年（歴史学者　村上瑞祥氏）だそうだ。コロナ禍で何もかもが停滞や中止を余儀なくされ、健康までもが脅かされた3年余、そろそろ希望が芽吹く年になることを期待する。

一身田地区には神社仏閣がたくさんある。今回は平成31年1月号一身田の新聞を再掲しながら再度心新たにして氏神さんを紹介する。

①一御田神社
一身田町679番地
当神社は、天満宮、花山稲荷神社、戦没者・町功労者慰霊社からなる。

②大乃己所神社
大古曽1739番地
平安時代から在ったとされる(延喜式)五穀豊穣、交通安全、商売繁盛などに御利益がある。

③石積神社
創祀は不明。織田信長の伊勢攻めで兵火に合い消滅した。もとは、窪田町階下に在ったが、道路拡幅工事で現在地に移転した。

④八幡（熊野神社）
日本三大津の一つ安濃津と藤堂高虎を祀っている。長寿、繁栄、良縁、開運に御利益がある。

一身田地区には七社の神社がある。氏子さんらの尽力で護持している。

⑤大乃己所神社
一身田中野694番地
781年（奈良時代）に鎮座したと申し伝えがある。
明治41年に大古曽の大乃己所神社へ合祀されたが、昭和26年分祀された。「中野のおしっさん」は有名で、津市の無形文化財に指定されている。

⑥宇氣比神社
一身田西豊野2101の2番地
通称「今井」は39戸の小さな町ですが有名な「今井の観音さん」の上にあります。

⑦八柱神社
一身田豊野1277番地
通称「谷」は東豊野地区の西側位置し、当神社は、人里離れた田んぼ道を通り、小高い丘の上にある。

ここからは専門家である脇田宮司に「お参り」について投稿を頂いた。

投稿

大切に残したいお参りの作法

一御田神社　宮司　脇田匡

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。

皆様方におかれましては清々しい新春をお迎へのことと心よりお慶び申し上げます。

一御田神社に於きましても元日早朝に干支絵馬提灯の灯り包まれる中で新年初の祭典である「歳旦祭」を執り行い、一年間の安らかな暮らしを願うと共に、その年の祭典や行事の始まりを御神前に奉告致します。

本年は行動制限も緩和され、年越しやお正月には寺社への参拝を計画されている方も少なくないと存じます。

そこで今回は寺社への参拝である「お参り」について、その作法の意味について簡単にお話をさせて頂きたいと思います。

我々は他人の家を訪問する場合、チャイムを鳴らして訪れた事を相手に伝えますね。それが寺社では鈴等を出す作法にあたります。

次に挨拶と共に訪問先への手土産を手渡しします。本来、生産したお米、野菜や果実等の食物が中心でしたが、収穫量に左右されないお金が代わりとなり、その習慣はそのまま賽銭に引き継がれます。そして一番の目的である感謝や祈願を行うために丁寧に手を合わせて深いお礼と共に自分の思いを言葉にして相手に伝え一連の作法を締め括ります。

このように日常の作法も寺社での作法についても基になる考え方は同じである事を考えると、年末年始の「お参り」についても先祖より引き継がれた日常生活の一部として身近に感じて頂けると思います。

「相手を尊重し、丁寧に自分の願いや感謝の気持ちを言葉で伝える事」をできる限りシンプルに形に表した所作である。

残して行きたい日本の精神文化の一つである事に違いはありません。

新年のご挨拶

一身田地区自治会連合会　会長　岡野勇治

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は3年越しのコロナ禍に関らず各種団体による七夕祭り、寺内町祭り、親睦旅行、歩こう会、グランドゴルフ、趣味の作品展、笑顔と絆の写真展等々暗い世相を吹き飛ばすような各種イベントが相次いで開催され、町の皆様こぞってご参加いただき久々の賑わい、絆作りを誠にありがとうございました。

さて一身田町のかつての賑わいは高田本山や先祖、先達のご努力の賜物でありますが、いつのまにやら「時代の流れ、社会情勢の変化」という病魔に見舞われて、この町を蝕んでいきました。

しかし、平成29年11月、高田本山専修寺が国宝に指定されました！　これは病魔を退治のため町の活性化に資する強力な武器として天が与えてくれたものと思わざるを得ません。本年5月は50年に一回という開山親鸞聖人ご誕生等大法会が開催されます。

「専修寺の国宝指定50年に一度の大法会」は町おこしのビッグチャンスです。私たちの手によって、より以上の賑わいを実現すべく、その為にはご町内の皆様一人ひとり、老いも若きも町のスポークスマンとなって「歴史と文化、国宝の有る町一身田！」を誇りとして参拝客、観光客に対する真心のこもった温かいおもてなしによって交流の和、絆の輪を全国津々浦々に拡げていくことが町の再興を悲願とする私たちの使命であり、宿命であろうかと思います。病魔との戦いに一刻の猶予もありません。

本年1月のお七夜、5月の大法会には町中が初参り、リピーターで溢れ、「お久しぶり、お七夜さんにぎわっているわよ」「お帰りなさい、月命日のお粥さん食べに行こうか」「大法会、ようこそお越し下さいました」等々の挨拶、笑顔が町のあちらこちらで飛び交うよう皆様と共に頑張っていく所存でございます。今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

末尾となりましたが皆様方のご健勝、ご多幸とご家族お揃いで良きお正月を過ごされんことを祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

一身田郵便局　新社屋まもなく完成

工事が急ピッチで進む新一身田郵便局

令和4年6月始まった一身田郵便局舎工事はまもなく完成する。新局舎での営業は2月13日（月）から行われる。新局舎は一階平屋建てで、旧局舎と比べると小さくコンパクトになるが、日本で10局しかない木像建築で環境に優しい建物である。

郵便物の引き受け、切手印紙の販売、貯金、保険の業務は前局舎時と全く同じ。営業時間は午前9時～午後5時

一身田郵便局の歴史

一身田郵便局の始まり

一身田に郵便取扱所がおかれたのは、明治7年2月20日であった。郵便制度が始まって3年目でした。

初代局長は一身田の庄屋であった小林伊兵衛氏（一身田仲之町）、二代目は小林藤吉郎氏、三代目は今井源吾氏、四代目から平松家が昭和43年まで3代続いた。

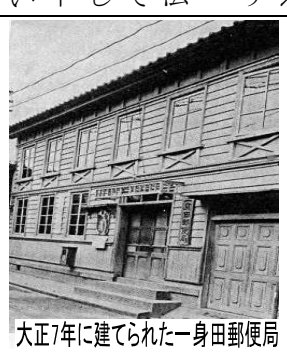
鉄道の開通と郵便物

明治24年8月21日、津市で最も早く鉄道が敷設された一身田では、郵便物も人力から鉄道へと代わった。昭和34年にバス便に代わる65年間鉄道便が続いた。

電報

一身田に電報が開設されたのは、明治31年で当時は非常にセンセーショナルで昼夜花火を挙げての歓迎はお祭りのようであった。

参考資料　平松令三氏「一身田郵便局のあしあと」


大正7年に建てられた一身田郵便局

お七夜さん交通規制

1月9日～16日まで

一身田の冬の風物詩とも云える「お七夜さん」。親鸞聖人の命日を中心に七昼夜念仏が唱えられる。本山通りや仲之町通りでは多くの香具師や業者の店が立ち並び賑いに華を添える。仲之町通りでは、マルシェやまちかど博物館の出店もあり、来て楽しい、見て楽しい一週間となりそうだ。

道路交通規制

本山通りは期間中午前9時～午後6時まで、仲之町通りは、1月9日（成人の日）、14日（土）、15日（日）の三日間通行止めとなる。

駐車場は、高田高校、本山大駐車場、一小南グラウンド、人権センター等が利用できる。

賑わいを取り戻せるかお七夜さん

地域懇談会

一身田中学校区　人権フェスティバルに参加して

一身田地区青少年育成協議会　本多知行

12月10日(土)、一身田中学校で、「思いあふれるこの地域～楽しく人権について学ぼう、考えよう～」というテーマで人権フェスティバルが開催されました。

オープニングでは、一中吹奏楽部の演奏と空手キッズによる演舞が披露されました。

次いで、栗真小学校で開かれた子供人権フォーラムの還流報告、人権標語の発表と優秀作品の表彰式が行われました。

休憩のあと、自閉症の息子二人を持つ父親と長男の音楽ユニット「RAMO」(らも)さんによるトーク＆ライブがありました。

殴ったり蹴ったりするのも暴力だけど一番の暴力は無関心！

障がい者を社会的弱者と呼んで、良かれと思い最初から分けてしまっていることに気づいてほしい。これが本当の差別です。

「障がいをハンデではなく特性としてとらえ、その違いを笑えるような、やわらかでまぜこぜの世の中になってほしい。」という願いを込めた熱いトークに聞き入るうちに終演になりました。

一身田中学校区人権標語の入選作は次の通り

小学校一年生

たすけてくれて　うれしかった　こんどは　わたしが　たすける　ばん

二年生

あそぼうよ　いわれて　きもち　ぽっかぽか

三年生

一人がわらえば　みんながわらう　みんながわらうと　仲間がふえる

四年生

えがおはね　しあわせになる　おまじない

五年生

じぶんいろ　みんなで　出そう　カラフルに

六年生

一人じゃない　みんながいるよ　君のそば

中学一年生

カラフルに　光り輝く　それぞれの色

二年生

認め合おう　自分の個性　みんなの個性

三年生

「それはダメ」　言える関係　大切に

保護者

いじめは心の感染症　みんなが持とう　心のワクチン

寺内町の館の活用と役割

寺内町の館　館長　小林伸生

一身田寺内町の館は平成十四年十一月に設立され昨年二十年目を迎えました。十一月二十六日に津市長、真宗高田派法嗣、宗務総長をはじめ、過去、現在お世話になっている方々をご招待して記念式典を開催しました。

この節目に過去を振り返ると共に今後の取組を考える事が重要です。

観光客を誘致し国宝高田本山と共に地域の文化、歴史を広く広める事が館の重要な役割です。

近年、他の商店街同様、寺内町もその衰退は著しく対策が必要です。昔は、地域住人の商店街であり、また伊勢別街道から高田本山への人の流れもありました。商店街の復活の為には人の流れを生み出す工夫、楽しめる街づくり、話題作りが重要です。過去にも提案しましたが毛無川、環濠の話題作り、レンタサイクル、ウォーキングコースの整備、若者が楽しめる体験型街づくり、最新のAR技術(現実の世界に仮想画像を追加する)の応用、周辺観光地と連携した取り組み等色々あり、問題意識を持ち関係者全員が一丸となり熱意を持って取り組めば道は開けると考えます。館として精一杯のサポートをしていきます。また地域のコミュニティの場として、住民作品展示用スペースの開放も考えています。

二十周年記念に作成したビデオ「二十年の歩みと今後」でもこの様な課題を取り上げていますので興味があればQRコードから見て下さい。

一身田・長岡線今後の工事見通し

津市議会議員　村主英明

岩崎病院から毛無川を超えて南に延びる道路の拡幅工事が進められています。今後の見通しが気に掛かるかと思いますので、概要をお知らせします。

二百石橋は、現在の狭い橋をそのまま残した上で、両側に拡幅します。下流側、上流側の順で工事を行い、来年五月末には完了する予定です。

工事中は、片側通行にて交通を処理する予定ですが、ごく短期間、通行止めが発生するかもしれません。

その後、橋の北側・南側のスロープ(斜面)を「長く緩やかな傾斜」に改良する工事を行います。スロープの南側は、途中(橋とT字路交差点のまん中あたり)までの拡幅工事を令和五年十二月までの工期で完成させます。

なお、その先(南側)は、未買収箇所が買収できたら、T字路交差点まで一気に令和六年度に拡幅工事を完成させる予定になっています。

シリーズ　本山をもっと知ろう！

600年の時を超えて贈られた「見真」

高田本山　専修寺　広報課　玉野　章法

御影堂内の正面中央上の欄間には「見真(けんしん)」と書かれた大きな額が掲げられています。この額は畳3畳もの大きさです。これは、明治天皇から親鸞聖人に贈られた大師号です。

大師号とは、徳の高い僧侶に対して天皇が贈る称号で、僧侶への最高の称号です。

皆さんもよくご存じのとおり、天台宗最澄の伝教大師、真言宗空海の弘法大師が最も有名な例です。

最澄には西暦866年、空海には西暦921年に贈られており、多くは諡号(しごう)といい本人の死後に贈られる尊称です。

ただ親鸞聖人に対しては、申請を何度か行いましたが、却下されていたのです。

それは、その背後に他宗派からの反対運動があったからです。「親鸞は公然と妻帯をしている。戒律に違反する破戒僧であり、国の法律にも違反している」と訴えられたのでした。明治時代になって「僧尼令」という法律が破棄され、僧侶の妻帯が公認されたこともあり、西暦1876年に明治天皇から親鸞聖人に対して、「見真大師」という大師号が贈られたのでした。

親鸞聖人の死後600年が経過して、ようやく天皇に認められたものです。

3D映像で極楽浄土の世界を

特別法要　事務局　押小路　連円

高田本山専修寺では5月21日から28日まで開山親鸞聖人御誕生850年など4つの奉讃法会をまとめた特別法要がございます。前日は稚児練り、特別法要期間中は布教使による法話や国宝特別読経(申し経)など催しものをたくさん予定しています。

また、特別法要記念事業として建設中の新宝物館は特別法要と同時に開館いたします。

そこで1月9日から2月15日まで日本博の一環として、新宝物館の一部を先行公開いたします。「VRで魅せる専修寺の絵画・彫刻が放つ浄土世界の美のオーラ」をテーマに世界初の極楽浄土の世界を描き出したVR映像と国宝『御影堂』『如来堂』の建築美を間近に映し出す3D映像が体験できます。是非ともご参詣ください。

混雑軽減のため予約を開始しております。詳しくは専用サイトをご確認ください

文芸投稿　私の町

中西万喜夫

ある日　ある時　ある人と
あの日　あの時　あの人の
ある　ある　話をしてみたよ

ある日　ある時　あの人は
あの日　あの時　あの人に
ある　ある　想いをしていたよ

ある日　ある時　ある人に
あの日　あの時　あの人と
この年　この日　この二人

ある日　ある時　ある人は
あの日　あの時　あの人の

この町が好きと言いました。

紙面の都合上　小学校五年生、六年生、中学校の部は次回掲載致します

「家族」優秀標語作品を発表

一身田地区青少年育成協議会

一身田地区青少年育成協議会は一小、一中の児童生徒を対象に「家族」をテーマにした標語を募集、優秀42作品を選出した。

小学校

一年生の部

かぞくといっしょにいるとき　ほっとする
かぞくがわらっているのがすき
かぞくと　いっしょに　ごはんを　たべると
しあわせになるよ
ママ、いつもぎーとしてくれて　ありがとう

二年生の部

かぞくは　わたしの　たからもの
わたしは　かぞくの　たからもの
ありがとう　いいあえるのが　しあわせだ
ありがとう　いつも　いっしょに　いてくれて

三年生の部

うれしいと　思ったら　ありがとう
あわせは　家族がいるから　かなうんだ
楽しもう　なにげない会話　これからも
つたえたい　かんしゃの気持ち　ありがとう
楽しいわらい声がきこえてる
やっぱりうちが一番だ

四年生の部

家族1人の幸せは　家族みんなの幸せ
言えないけど　毎日毎日　ありがとう
つらいこと　家族に言って　リラックス
どんな日も　家に帰ると　ほっとする
わたしにとって　家族との時間は　たからもの